



Your Reliable Partner

BH7

Socket 478 システムボード
ユーザーマニュアル

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目次

| | | |
|--------------|---|------------|
| 第 1 章 | はじめに | 1-1 |
| 1-1. | 機能と仕様..... | 1-1 |
| 1-2. | レイアウト..... | 1-3 |
| 第 2 章 | ハードウェアのセットアップ | 2-1 |
| 2-1. | マザーボードのインストール..... | 2-1 |
| 2-2. | Pentium® 4 CPU およびヒートシンクサポート台の取付け..... | 2-2 |
| 2-3. | システムメモリの取付け..... | 2-3 |
| 2-4. | コネクタ、ヘッダ、スイッチ..... | 2-4 |
| (1). | ATX 電源入力コネクタ [ATXPWR1、ATX12V]..... | 2-4 |
| (2). | FAN コネクタ [CPUFAN1、SYSFAN1、AUXFAN1、AUXFAN2] | 2-5 |
| (3). | CMOS メモリクリアリングヘッダ [CCMOS1]..... | 2-6 |
| (4). | 追加 USB ポートヘッダ [FP-USB1]..... | 2-7 |
| (5). | フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ [FPIO1]..... | 2-8 |
| (6). | 赤外線デバイスヘッダ [FPIO2]..... | 2-9 |
| (7). | システム管理バスヘッダ [SMB1]..... | 2-9 |
| (8). | 内部オーディオコネクタ [CD1、AUX1]..... | 2-10 |
| (9). | 加速式グラフィックスポートスロット [AGP1]..... | 2-10 |
| (10). | フロッピーディスクドライブコネクタ [FDC1]..... | 2-11 |
| (11). | IDE コネクタ [IDE1、IDE2]..... | 2-12 |
| (12). | シリアル ATA コネクタ [SATA1]..... | 2-13 |
| (13). | 状態インジケータ [D17、D18]..... | 2-14 |
| (14). | バックパネルのコネクタ [Mouse、Keyboard、LPT1、COM1、 OPT1、OPT2、AUDIO1、AUDIO2、LAN、USB1/USB2] .. | 2-15 |
| 第 3 章 | BIOS について | 3-1 |
| 3-1. | SoftMenu Setup..... | 3-2 |
| 3-2. | Standard CMOS Features..... | 3-4 |
| 3-3. | Advanced BIOS Features..... | 3-7 |
| 3-4. | Advanced Chipset Features..... | 3-10 |
| 3-5. | Integrated Peripherals | 3-12 |
| 3-6. | Power Management Setup | 3-16 |

| | | |
|--------------|---|------------|
| 3-7. | PnP/PCI Configurations..... | 3-19 |
| 3-8. | PC Health Status | 3-21 |
| 3-9. | Load Fail-Safe Defaults | 3-22 |
| 3-10. | Load Optimized Defaults | 3-22 |
| 3-11. | Set Password | 3-22 |
| 3-12. | Save & Exit Setup | 3-22 |
| 3-13. | Exit Without Saving..... | 3-22 |
| 付録 A. | Intel チップセットドライバのインストール..... | A-1 |
| 付録 B. | Intel アプリケーションアクセラレータのインストール..... | B-1 |
| 付録 C. | オーディオドライバのインストール..... | C-1 |
| 付録 D. | LAN ドライバのインストール..... | D-1 |
| 付録 E. | USB 2.0 ドライバのインストール..... | E-1 |
| 付録 F. | BIOS アップデートガイド..... | F-1 |
| 付録 G. | ハードウェア監視 (Winbond Hardware Doctor ユーティリティ) G-1 | |
| 付録 H. | Suspend to RAM について..... | H-1 |
| 付録 I. | トラブルシューティング..... | I-1 |
| 付録 J. | テクニカルサポートの受け方について..... | J-1 |

第 1 章 はじめに

1-1. 機能と仕様

1. CPU

- 400MHz/533MHz のシステムデータバスを持つ Intel® Pentium® 4 Socket 478 プロセッサをサポート
- Intel® ハイパースレッドテクノロジー (Hyper-Threading Technology) をサポート

2. チップセット

- Intel 82845PE (MCH) + 82801DB (ICH4)チップセット
- 高速ユニバーサルシリアルバス(USB v2.0)をサポート
- Ultra ATA/100/66/33 モードをサポート

3. メモリ

- 3 つの 184-ピン DIMM ソケット (バッファなし非-ECC DIMM)
- 3 DIMM DDR 200/266 (最大 2GB) をサポート
- 2 DIMM DDR 333 (最大 2GB) をサポート

4. AGP

- 加速式ポートコネクタが AGP 4X インターフェイス(1.5V)をサポート

5. LAN

- オンボード 10/100M PCI ファーストイーサネットコントローラ

6. シリアル ATA 150

- オンボード SATA ブリッジコントローラ
- オンボード 2-チャンネルの 1.5 G bps シリアル ATA インターフェイス

7. オーディオ

- オンボードの RealTek ALC650 の 6 チャンネル AC 97 CODEC
- プロ仕様のデジタルオーディオインターフェイスが、24 ビットの S/PDIF イン/アウトをサポートします

8. システム BIOS

- SoftMenu™ テクノロジーが CPU パラメータを設定
- プラグアンドプレイ (PNP) をサポート
- Advanced Configuration Power Interface (ACPI) をサポート
- デスクトップ管理インターフェイス(DMI)をサポート
- AWARD BIOS による書き込み禁止ウイルス防止機能

9. 内部 I/O コネクタ

- 1x AGP スロット
- 5x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 2x Ultra ATA/100/66/33 コネクタ (SATA が使用可能になっているとき、3つのデバイスのみをサポート)
- 1x シリアル ATA 150 コネクタ
- 1x USB 2.0 ヘッダ
- 1x CD-IN、1x AUX-IN ヘッダ
- 1x IrDA ヘッダ

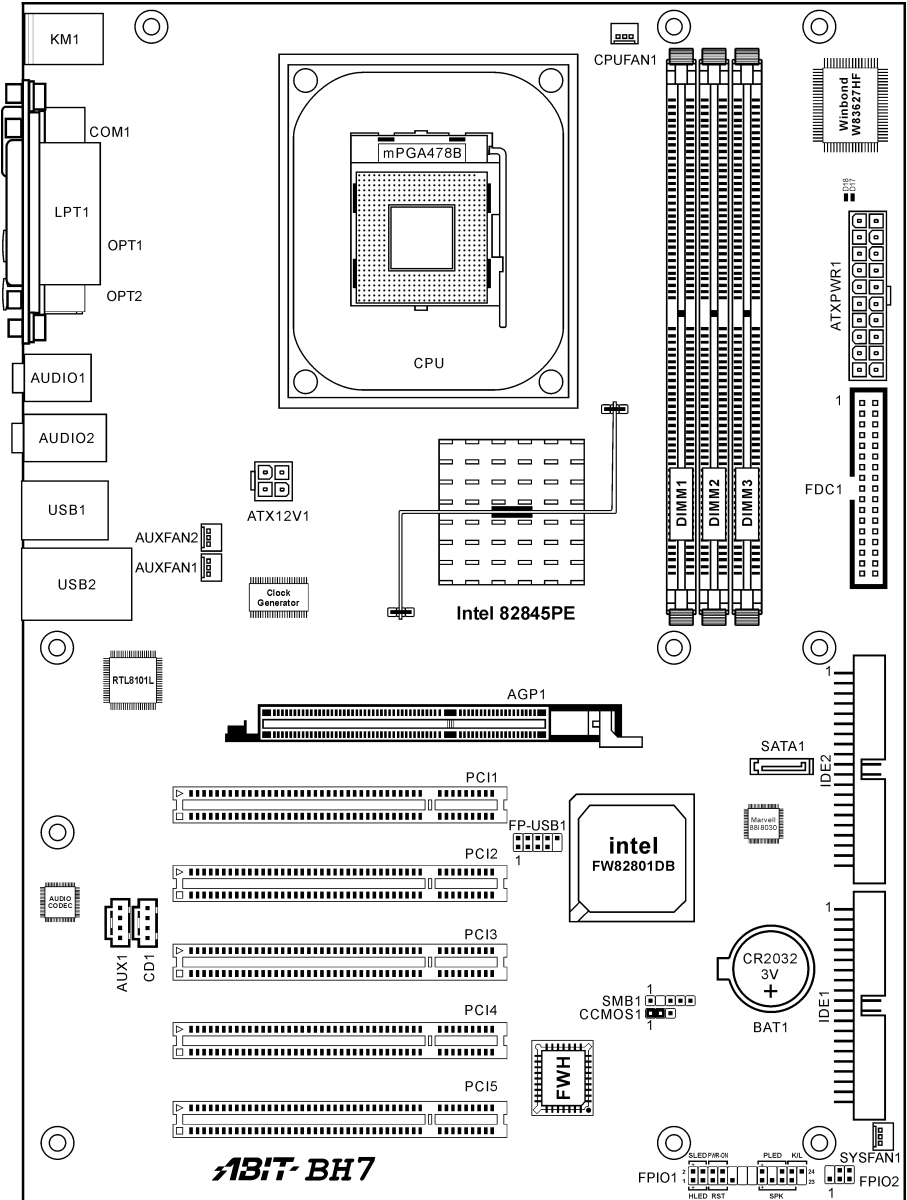
10. 背面パネル I/O

- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- 1x シリアルポートコネクタ、1x パラレルポートコネクタ
- 1x S/PDIF インコネクタ
- 1x S/PDIF アウトコネクタ
- AUDIO1 コネクタ (リアレフト / リアライト、センター/サブウーファ)
- AUDIO2 コネクタ (Mic-In、ラインイン、フロントレフト/フロントライト)
- 4x USB、1x RJ-45 LAN コネクタ

11. その他

- ATX フォームファクタ
 - ハードウェア監視 - ファン速度、電圧、CPU とシステム温度および他のデバイス温度監視用のサーマルヘッダを含む
 - LAN による呼び起こし、モデムリング、RTC アラーム、キーボードとマウスの電源オンをサポート。
 - STR (Suspend to DRAM) 対応
- ※ ウェークオン LAN、モデムをサポートしますが、ATX 電源 5V スタンバイ電源は、少なくとも 720mA の電流を提供できる必要があります。そうでないと、機能が正常に機能しないことがあります。
- ※ このマザーボードは 100/66/33MHz の標準バス速度をサポートし、特定の PCI、プロセッサおよびチップセット仕様により使用されています。これらの標準バス速度以上の速度は、固有コンポーネント仕様が原因で保証されていません。
- ※ シリアル ATA コントローラは、Ultra DMA/ATA100 以上のハードドライブのみをサポートします。この仕様以下のハードドライブでは機能しないので、使用しないでください。
- ※ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

1-2. レイアウト





第2章 ハードウェアのセットアップ

取付けを開始する前に：ATX12Vの電源装置のスイッチをオフにする(+5Vスタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

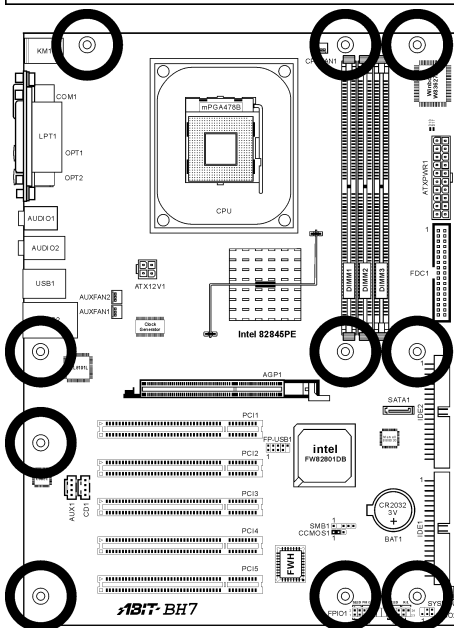
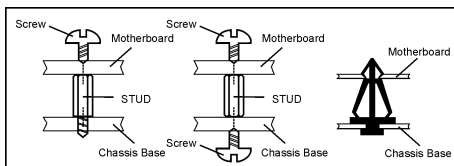
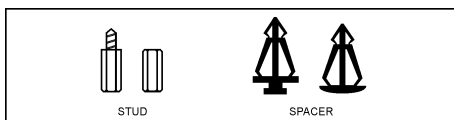
2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の2つの方法があります。

1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する

原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたなら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終わったら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

注意：PCBサーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサーがすでにシャーシにしっかりと取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサーを取り外してください。



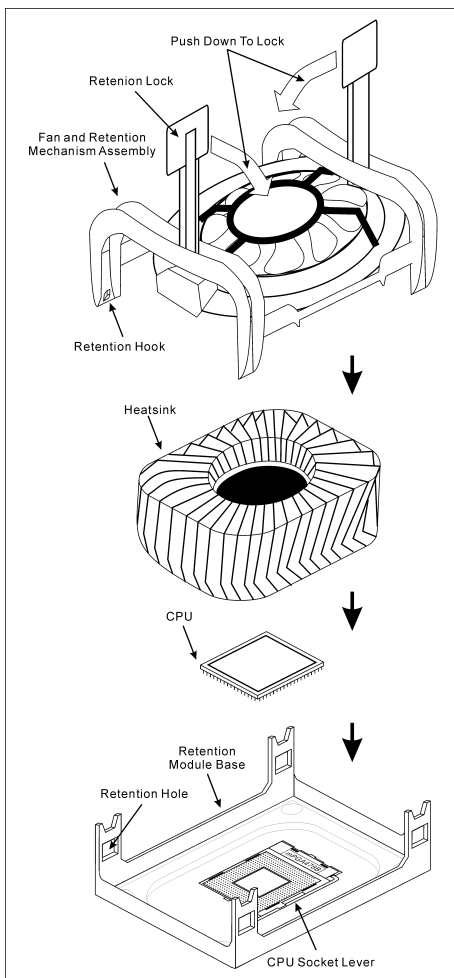
2-2. Pentium® 4 CPU およびヒートシンクサポート台の取付け

このマザーボードは ZIF (ゼロインサクションフォース) Socket 478 を提供して Intel® Pentium® 4 CPU をインストールします。お買い上げになった CPU には、ヒートシンクと冷却ファンのキットが付属しています。付属していない場合、Pentium® 4 Socket 478 向けに特別に設計されたキットをお求めください。

1. マザーボードに 478 ピン ZIF ソケットが見つかったら、リテンションモジュールをマザーボードに固定します。

注意： Pentium® 4 マザーボードの用に特別に設計されたシャーシをご使用の場合、金属製スタッドやスペーサーがすでにシャーシに取り付けられていれば、その場所に注意してください。金属製スタッドやスペーサーが PCB の印刷回路線や部品に接触しないように用心してください。

2. ソケットから CPU のソケットレバーを横に、それから 90 度上に引っ張ります。CPU を正しい方向に差し込みます。CPU は一方向にしかフィットしないため、CPU を差し込む際に余分な力をかけないでください。CPU を押さえながらソケットレバーを閉めます。
3. ヒートシンクを CPU にすっぽりかぶせます。
4. ファンとリテンションメカニズムアセンブリをヒートシンクの上に置きます。ファンとリテンションメカニズムアセンブリの各サイドのリテンションロックが、4 つともリテンションホールにはめ込まれていることを確認してください。



5. ファンとリテンションメカニズムアセンブリの両側にあるリテンションロックを押し下げて、リテンションモジュール台にしっかり固定します。
6. これでファンとリテンションメカニズムアセンブリとリテンションモジュール台の各サイドが、内部のヒートシンクにしっかり固定されました。

注意： 正しいバス周波数と倍数をプロセッサ用に設定するのを忘れないでください。

2-3. システムメモリの取付け

このマザーボードにはメモリ拡張用に3つの184ピンDDR DIMMサイトを備えています。最小メモリサイズは128MBで、最大メモリサイズは2GB DDR SDRAMです（DIMM2とDIMM3は共有です）。

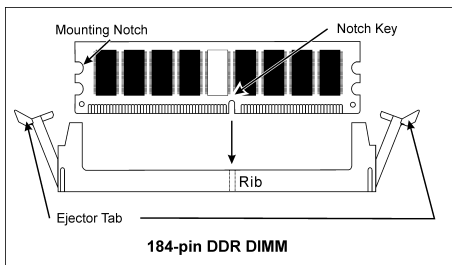
表 2-1. メモリ設定の例

| バンク | メモリモジュール | 合計 |
|-------------------|----------------------|-------------|
| Bank 0, 1 (DIMM1) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| Bank 2, 3 (DIMM2) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| Bank 3, 2 (DIMM3) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| システムメモリの合計 | | 128MB ~ 2GB |

注：メモリモジュールを追加または取り外した後、ハードウェアやBIOSは必要ありません。

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにしてAC電源コードを抜いてください。

1. ボードのDIMMスロットを探します。
2. DIMMモジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリップに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかりと押しすと、スロットの両側のイジェクタタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMMモジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMMモジュールは一方方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMMモジュールを取り外すには、スロットの2つのイジェクタタブを同時に外側に押しつけてから、DIMMモジュールを取り出します。



注意：静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

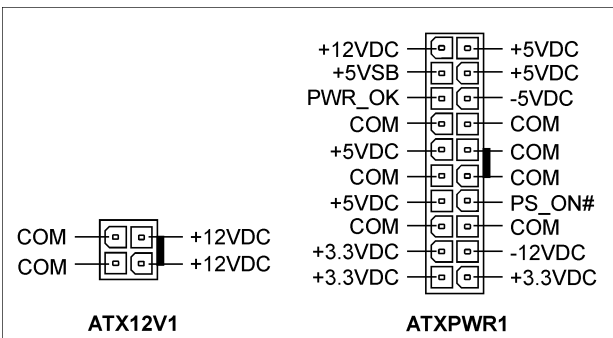
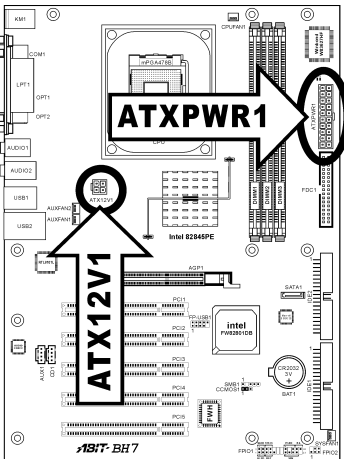
2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

ここでは、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第1章に示します。

警告: 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、ACアダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC電源コードのプラグを差し込んでください。

(1). ATX 電源入力コネクタ [ATXPWR1、ATX12V]

Pentium 4 は、通常の CPU とは異なる電源装置を要求します。この CPU は新しく設計された ATX12V 電源で、少なくとも負荷の大きいシステムに対しては 300W、20A +5VDC の最大出力、少なくとも呼び起こし LAN 機能のサポートに対しては 720mA +5VSB を組み込んでいます。



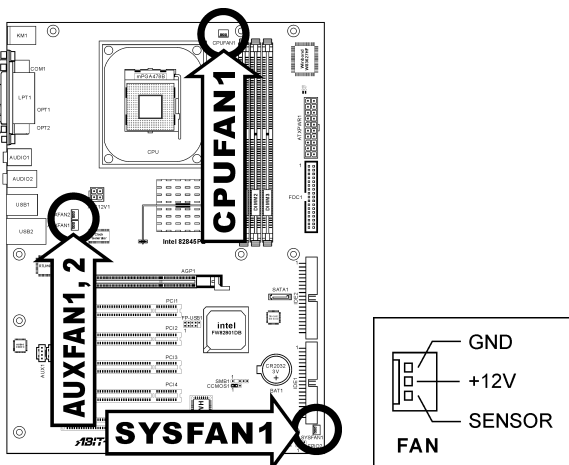
(2). FAN コネクタ [CPUFAN1、SYSFAN1、AUXFAN1、AUXFAN2]

これらの3ピンコネクタは、それぞれシステムに取り付けた冷却ファンに電源を供給します。

CPU はヒートシンクと共に電源ファンを使用することで、常に冷えた状態に保つ必要があります。システムはCPUファンの速度を監視することができます。

- **CPUFAN1** : CPU ファン
- **SYSFAN1** : システムファン
- **AUXFAN1** : 補助ファン
- **AUXFAN2** : 補助ファン (BIOS メニューにはモニタリングはサポートされていません。)

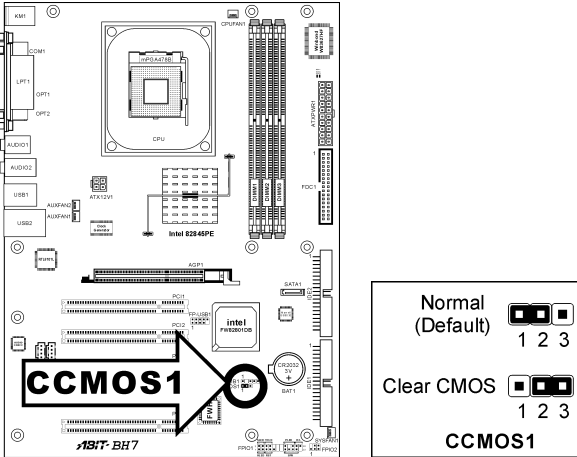
警告: これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをつけないで下さい。



(3). CMOS メモリクリアリングヘッダ [CCMOS1]

このヘッダはジャンパキャップを使用して CMOS メモリを消去します。

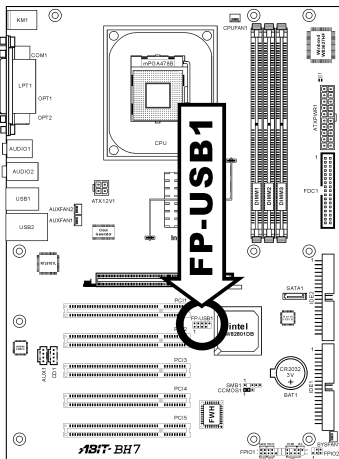
- 短いピン 1-2 (デフォルト) : 標準操作
- 短いピン 2-3 : CMOS メモリの消去



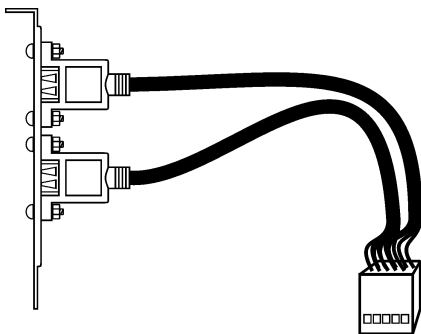
警告 : CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

(4). 追加 USB ポートヘッダ [FP-USB1]

このヘッダは、USB 2.0 仕様向けに設計された USB ケーブルを経由して、1つの追加 USB 2.0 ポート接続を提供します。



| <p>FP-USB1</p> | | ピン番号 | ピン割り当て | ピン番号 | ピン割り当て |
|----------------|---------|------|---------|------|--------|
| 1 | VCC | 2 | VCC | | |
| 3 | データ 0 - | 4 | データ 1 - | | |
| 5 | データ 0 + | 6 | データ 1 + | | |
| 7 | アース | 8 | アース | | |
| 9 | NC | 10 | NC | | |

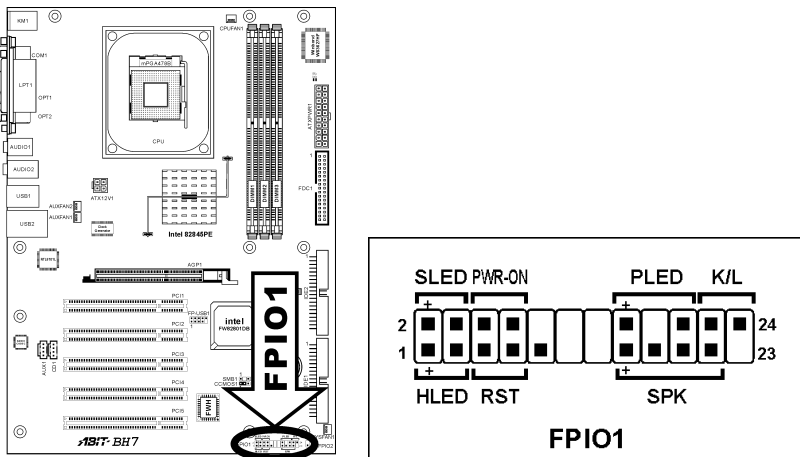


USB Header

(5). フロントパネルスイッチとインジケータヘッド [FPIO1]

このヘッドは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

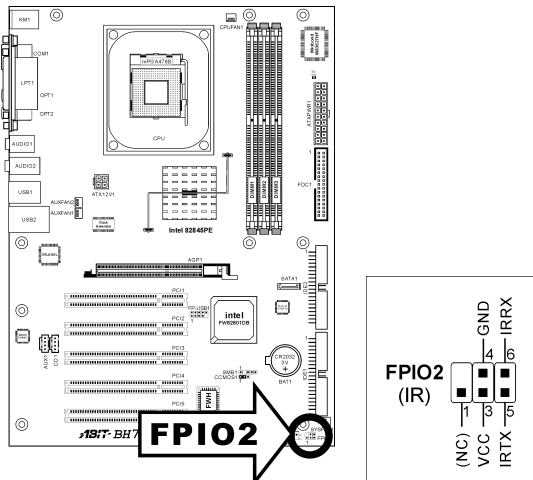
電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッドに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことで、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。



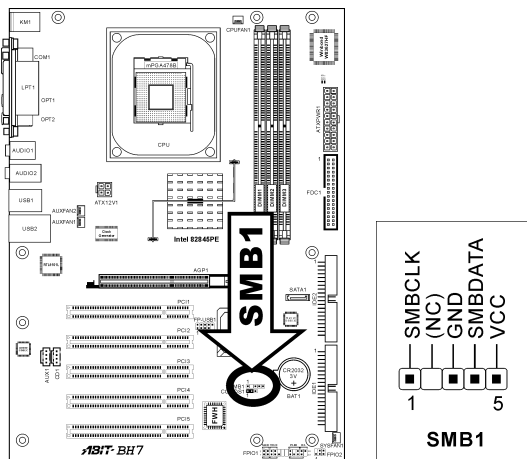
- **HLED (ピン 1、3) :**
シャーシの前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST (ピン 5、7) :**
シャーシの前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPK (ピン 15、17、19、21) :**
シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED (ピン 2、4) :**
シャーシの前面パネルのサスペンド LED ケーブルに接続します(ケーブルがある場合)。
- **PWR-ON (ピン 6、8) :**
シャーシの前面パネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED (ピン 16、18、20) :**
シャーシの前面パネルの電源 LED ケーブルに接続します。
- **K/L (ピン 22、24) :**
シャーシの前面パネルのキーロックケーブルに接続します(ケーブルがある場合)。

(6). 赤外線デバイスヘッダ [FPIO2]

このヘッダは、シャーシに組み込まれたオプションの赤外線デバイスに接続されます。このマザーボードは、標準の赤外線転送速度をサポートします。

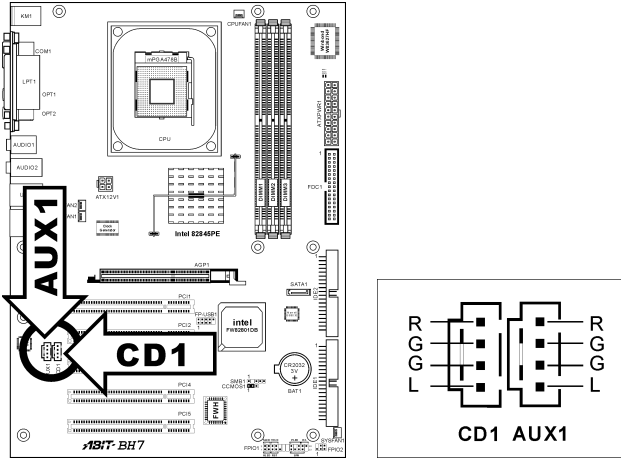
**(7). システム管理バスヘッダ [SMB1]**

このヘッダは、システム管理バス(SMバス)用に用意されています。SMバスはI²Cバスを特殊に変更したものです。I²Cはマルチマスタバスですが、これは複数のチップを同じバスに接続し、それぞれのチップをデータを初期化することによってマスタとして機能できるようにすることを意味します。複数のマスタが同時にバスをコントロールしようとする時、仲裁手順がどのマスタに優先権を与えるかを決定します。



(8). 内部オーディオコネクタ [CD1、AUX1]

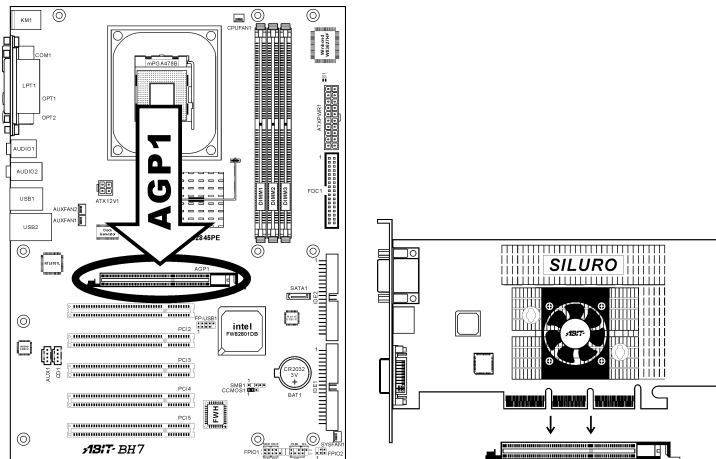
これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続されています。



(9). 加速式グラフィックスポートスロット [AGP1]

このスロットは、AGP 4X モードまでオプションの AGP グラフィックスカードをサポートします。グラフィックスカードの詳細については、当社の Web サイトを参照してください。

注意：このマザーボードは 3.3V AGP カードをサポートしません。1.5V AGP カードのみをご使用下さい。

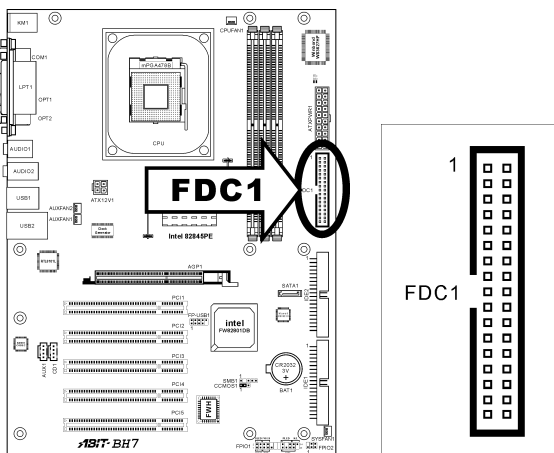


(10). フロッピーディスクドライブコネクタ [FDC1]

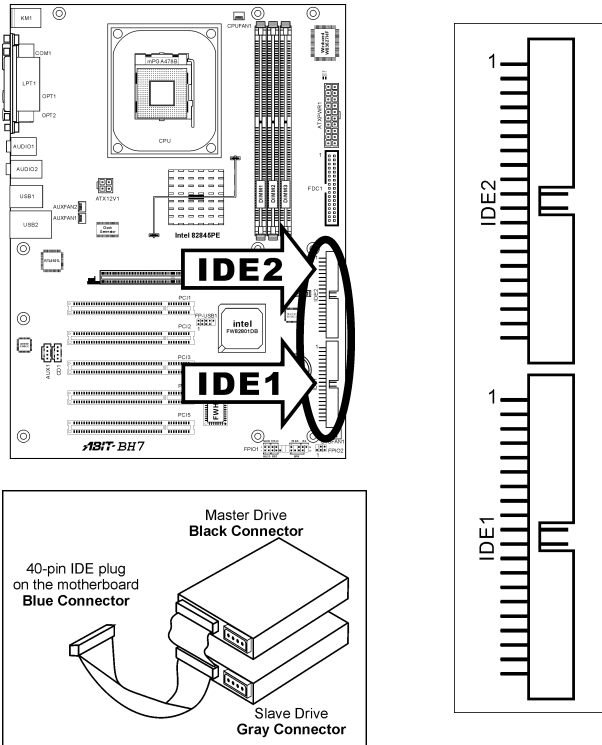
このコネクタは 34 ピン、34 コンダクタリボンケーブルを介して、2 つの標準フロッピーディスクドライブをサポートします。

フロッピーディスクドライブケーブルを接続するには、次の手順を実行します：

1. FDC1 コネクタにリボンケーブルの端を取り付けます。リボンケーブルの色の付いた端は FDC1 コネクタのピン 1 に揃っている必要があります。
2. リボンケーブルの他の端をディスクドライブコネクタに取り付けます。リボンケーブルの色の付いた端もディスクドライブコネクタのピン 1 に揃っている必要があります。一番端のコネクタはドライブ A として設計されたドライブに接続する必要があります。



(11). IDE コネクタ [IDE1、IDE2]



このマザーボードは2つの IDE ポートを提供して、Ultra ATA 66 リボンケーブルにより、Ultra ATA 100 モードで最大4基の IDE ドライブに接続します。各ケーブルは40ピン80コンダクタと3つのコネクタを備え、マザーボードに2基のハードドライブを接続できるようになっています。長い方のリボンケーブルの1本の端(青いコネクタ)をマザーボードの IDE ポートに接続し、短い方のリボンケーブルのほかの2本の端(グレーおよび黒のコネクタ)をハードドライブのコネクタに接続します。

2基のハードドライブを1つの IDE チャンネルを通してともに接続したい場合、最初のマスタードライブの後で、2番目のドライブをスレーブモードに構成する必要があります。ジャンプ設定については、ドライブのマニュアルを参照してください。IDE1 に接続されている最初のドライブは、普通「1次マスタ」と、2番目のドライブは「1次スレーブ」と呼ばれています。IDE2 に接続されている最初のドライブは「2次マスタ」と、2番目のドライブは「2次スレーブ」と呼ばれています。

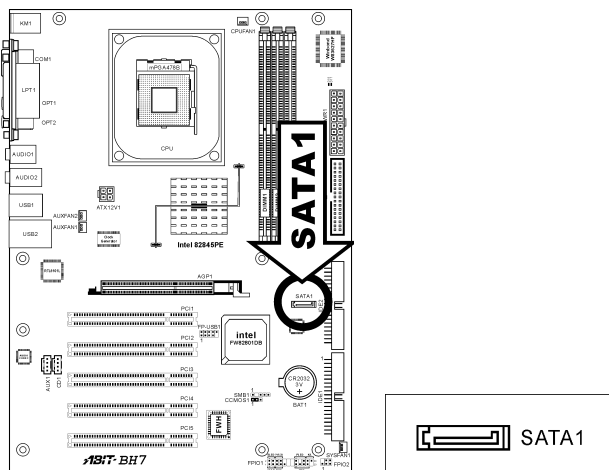
CD-ROM のような、昔ながらの速度の遅いドライブを、同じ IDE チャンネルの他のハードドライブと一緒に接続しないようにしてください。総合的なシステムの性能が落ちることになります。

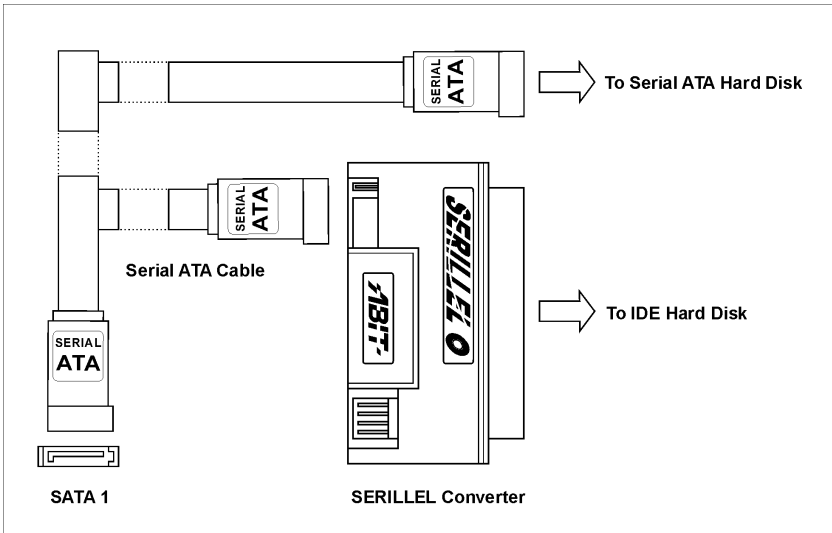
(12). シリアル ATA コネクタ [SATA1]

このコネクタはシリアル ATA ケーブルを通して、1つのシリアル ATA デバイス接続を提供します。オプションの SERILLEL2 コンバータを通して、従来の IDE ハードディスクに接続することも可能です。

注：この SATA 機能を有効にするには、BIOS メニューの“SATA コントローラ”オプションを前もって[有効]に設定する必要があります。この機能を有効にすることによって、“IDE2 マスタ”チャンネルが無効になり、“IDE2 スレーブ”チャンネルのみを使用することが可能になります。

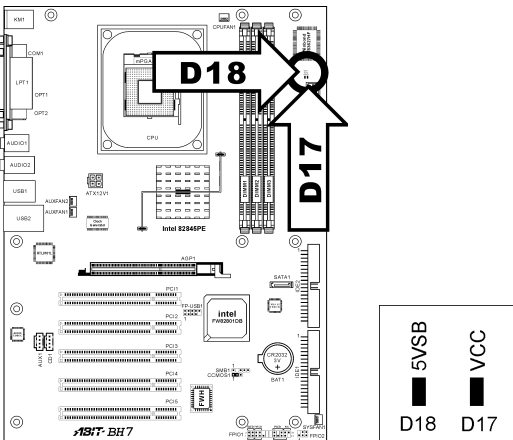
この SATA1 コネクタがどのシリアル ATA デバイスにも接続されていない場合、BIOS の“SATA コントローラ”オプションを[無効]に戻すことを忘れないでください。そうでないと、システムを起動中に“IDE2 スレーブ”チャンネルを検出できません。

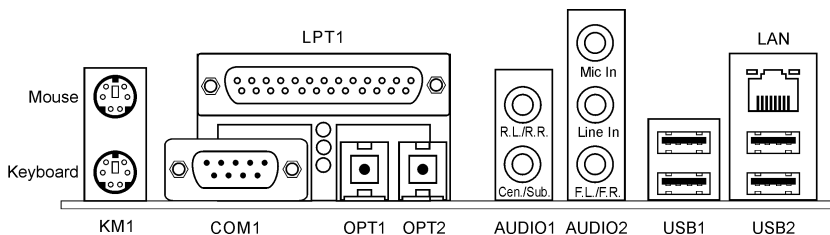




(13). 状態インジケータ [D17、D18]

- **D17 (VCC)** : この LED は、システム電源がオンになっているときに点灯します。
- **D18 (5VSB)** : この LED は、電源装置が電源に接続されているときに点灯します。



(14). バックパネルのコネクタ [Mouse、Keyboard、LPT1、COM1、OPT1、OPT2、AUDIO1、AUDIO2、LAN、USB1/USB2]

- **Mouse** : PS/2 マウスに接続します。
- **Keyboard** : PS/2 キーボードに接続します。
- **LPT1** : プリンタまたはこのコミュニケーションプロトコルをサポートする他のデバイスに接続します。
- **COM1** : この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたは他のデバイスに接続します。
- **OPT1** : このコネクタは、光学ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスに S/PDIF イン接続を提供します。
- **OPT2** : このコネクタは、光学ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスに S/PDIF アウト接続を提供します。
- **AUDIO1** :
R.L./R.R. (リア左/リア右) : 5.1 チャンネルのオーディオシステムの、左および右チャンネルに接続します。
Cen./Sub. (センター/サブウーファ) : 5.1 チャンネルのオーディオシステムの、センターおよびサブウーファチャンネルに接続します。
- **AUDIO2** :
Mic イン : 外部マイクからプラグに接続します。
ラインイン : 外部オーディオソースからラインアウトに接続します。
F.L./F.R. (フロント左/フロント右) : 5.1 チャンネルまたは正常な 2 チャンネルのオーディオシステムの、フロント左およびフロント右チャンネルに接続します。
- **LAN** : 構内通信網に接続します。
- **USB1/USB2** : スキャナ、デジタルスピーカー、モニター、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。



第3章 BIOS について

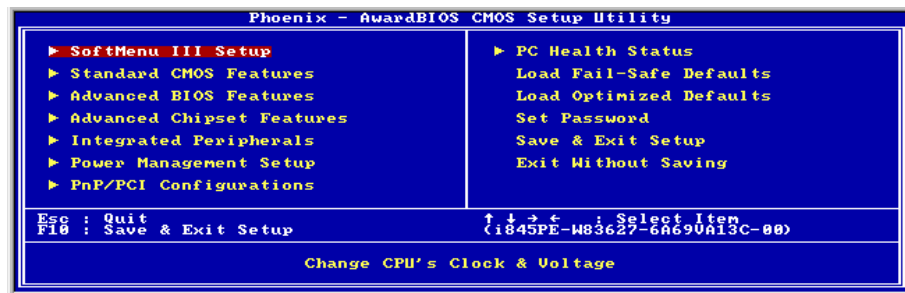
このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときだけに、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>+<Alt>+キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してシステムを再起動します。これらの2つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。



注：システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。



CPU Name Is:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば Pentium (R) 4 を表示します。

CPU 内部周波数:

本アイテムはプロセッサ速度を表示します。

CPU の動作速度:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

User Define:

警告: クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

* Ext. Clock (CPU/AGP/PCI):

“ユーザー定義” として “CPU 動作速度” オプションを選択した後、100MHz から 250MHz まで FSB 周波数の数字を選択することができます。

*** PCI Bus Frequency:**

このアイテムは、PCI バス周波数を決定します。

*** Multiplier Factor:**

このアイテムはロックされていないならば、CPU の乗数を選択します。

*** DRAM Ratio H/W Strap:**

このアイテムは、メモリコントローラハブ (MCH) に割り当てられた外部ハードウェアリセットストラップを設定します。

このオプションを手動で設定するには、次の手順を実行します。

- 400MHz FSB 周波数の CPU に対して [Low] を選択します。
- 533MHz FSB 周波数の CPU に対して [High] を選択します。

*** DRAM Ratio (CPU:DRAM):**

このアイテムは、CPU と DRAM の間で周波数比を決定します。設定可能なオプションは、1:1 および 3:4(低い“DRAM 比 H/W ストラップ”設定の下で)、または 4:5 および 1:1(低い“DRAM 比 H/W ストラップ”設定の下で)です。

CPU Core Voltage:

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

注意: 間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

DRAM Voltage:

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

AGP Voltage:

このアイテムは、AGP の電圧を選択します。

3-2. Standard CMOS Features



Date (mm:dd:yy):

このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

☞ IDE Primary Master/Slave、IDE Secondary Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

IDE Primary/Secondary Master/Slave

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラ

メータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

Cylinder:

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head:

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp:

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

Landing Zone:

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

Sector:

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

☞ **Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります :**

Drive A & Drive B:

このアイテムは取り付けられたフロッピードライブ (通常、ドライブ A のみ) のタイプを設定します。

Floppy 3 Mode Support:

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled] (使用不可能) 設定のままにしてください。

Video:

このアイテムは、一次システム監視で使用されるビデオアダプタのタイプを選択します。

[EGA/VGA]: (Enhanced Graphics Adapter/Video Graphics Array) EGA、VGA、SVGA、PGA モニタアダプタの場合。

[CGA 40]: (Color Graphics Adapter) 40 カラムモードで駆動。

[CGA 80]: (Color Graphics Adapter) 80 カラムモードで駆動。

[Mono]: (Monochrome adapter) 高解像度のモノクロームアダプタを組み込み。

Halt On:

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]: システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]: システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]: システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]: システムブートは、ディスクエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]: システムブートは、ディスクまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory:

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory:

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory:

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3-3. Advanced BIOS Features



Virus Warning:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、BIOS はハードディスクドライブのブートセクタとパーティションテーブルを監視します。ハードディスクドライブのブートセクタやパーティションテーブルへの書き込みが試みられると、BIOS はシステムを停止しエラーメッセージを表示します。

CPU Hyper-Threading

このオプションは、プロセッサのハイパースレディングテクノロジーの使用可能/不可能を切り替えます。

このアイテムをデフォルトの設定にしておくと、1つの物理プロセッサがOSとアプリケーションに対して2つの論理プロセッサに見えるように、同時マルチスレッド(SMT)プロセッサを可能にします。

このオプションは、ハイパースレッドテクノロジーを搭載したCPUでのみ使用可能です。

「Hyper-Threading Technology」の詳細については、
<http://www.intel.com/homepage/land/hyperthreading.htm>、
<http://www.intel.com/design/chipsets/ht/>で
 Intel Web サイトにアクセスしてください。

Quick Power On Self Test:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト(POST)の速度を上げます。BIOS は POST の間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第1ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第2ブートデバイス)、[Third Boot Device] (第3ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第1、第2、第3ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の3つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Swap Floppy Drive:

[Enabled] (使用可能) に設定しているときに、システムをフロッピードライブから起動すると、システムは通常のドライブ A の代わりにドライブ B から起動します。この機能を使用するには、システムに 2 基のフロッピードライブを接続している必要があります。

Boot Up Floppy Seek:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、BIOS はフロッピーディスクドライブがインストールされているかどうかをチェックします。

Boot Up NumLock Status:

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On] : 数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off] : 矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Disable Unused PCI Clock:

このオプションは、使用されていない PCI スロットのクロックを使用不可能にします。

[Yes]: システムは未使用の DIMM と PCI スロットを自動的に検出し、これらの未使用 PCI スロットへのクロック信号の送信を停止します。

[No]: システムはすべての PCI スロットにクロック信号をたえず送信します。

注: システムが自動的に検出できないアダプタがある場合、このオプションを[いいえ]に設定すると、誤動作の原因となります。

Security Option:

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき - システムが起動するたびに、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

注: パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

APIC Mode:

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

MPS Version Ctrl For OS:

この項目は、このマザーボードが使用する MPS (多重プロセッサ仕様) のバージョンを指定します。オプションは 1.1 と 1.4 です。デフォルトの設定は **1.4** です。デュアルプロセッサを実行するために古い OS を使用する場合、このオプションを 1.1 に設定してください。

OS Select For DRAM > 64MB:

このアイテムにより、OS/2 で 64MB 以上のメモリにアクセスできます。OS/2 以外のオペレーティングシステムの場合、このアイテムをデフォルトの[非 OS2]設定のままにしておいてください。

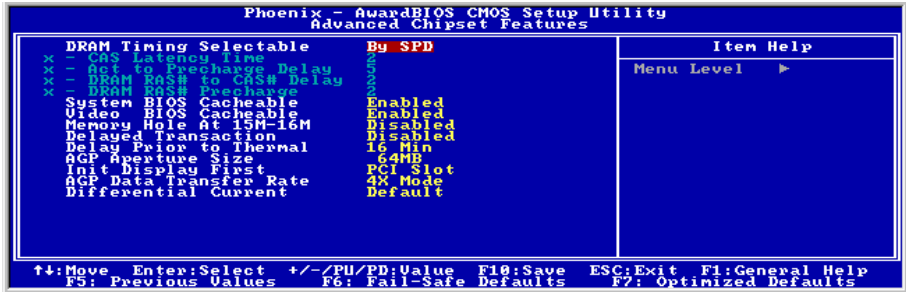
Report No FDD For OS:

[Yes] (はい) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

Delay IDE Initial (Secs):

このアイテムにより、BIOS は遅延時間を引き延ばすことによって一部の古いまた特殊な IDE デバイスをサポートすることができます。値を大きくすると、デバイスを初期化したり動作できる準備をするための遅延時間が長くなります。

3-4. Advanced Chipset Features



DRAM Timing Selectable:

この項目は、次の4つの項目に対し、使用しているメモリモジュールに従って、最適のタイミングを設定します。デフォルトの設定「SPDによる」は、SPD（シリアルプレゼンスの検出）デバイスのコンテンツを読み取ることによって、これら4つの項目を構成します。メモリモジュール上のEEPROMは、メモリの種類、サイズ、速度、電圧インターフェイス、およびモジュールバンクなどの、モジュールに関するクリティカルパラメータ情報を格納します。

* CAS Latency Time:

この項目は、DRAM 読み取りコマンドとデータが実際に使用できる時間との間の待ち時間を制御します。

* Act to Precharge Delay:

このアイテムは、DRAM パラメータで使用する DRAM クロックの番号を制御します。

* DRAM RAS# to CAS# Delay

この項目は、DRAM アクティブコマンドと読み取り/書き込みコマンドの間の待ち時間を制御します。

* DRAM RAS# Precharge:

プリチャージコマンドを DRAM に発行すると、この項目はアイドルクロックをコントロールします。

System BIOS Cacheable:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、キャッシュコントローラが使用可能になっていれば、F0000H-FFFFFH にアドレス指定されたシステム BIOS ROM へのアクセスがキャッシュされます。キャッシュ RAM の範囲が大きければ大きいほど、システムの効率は高くなります。

Video BIOS Cacheable:

システム BIOS をキャッシュするときと同様に、キャッシュコントローラも使用可能になっていれば、ビデオ BIOS のキャッシュを使用可能にすることによって、C0000H から C7FFFH にアドレス指定されたビデオへのアクセスをキャッシュできます。キャッシュ RAM の範囲が大きければ大きいほど、ビデオパフォーマンスは高速になります。

Video RAM Cacheable:

[Enabled] (使用可能) に設定されていると、ビデオ RAM はキャッシュ可能になり高いビデオパフォーマンスを提供できます。グラフィックスカードがこの機能をサポートしていない場合、このアイテムを使用不可能に設定してください。

Memory Hole At 15M-16M:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、15M-16M のメモリアドレススペースがこの設定を特別に要求する ISA 拡張カード用に予約されます。これにより、システムで利用できない 15MB 以上のメモリが作成されます。このアイテムは、デフォルトの設定のままにしておいてください。

Delayed Transaction:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、CPU が 8 ビットの ISA カードにアクセスしているとき、PCI バスが解放されます。これにより、PCI バスと ISA バスをより効率に使用して、PCI バスでパフォーマンスが落ちることを防ぐことができます。このプロセスは、通常 PCI の遅延トランザクションなしに約 50-60 PCI クロックを消費します。PCI 2.1 に準拠しない ISA カードを使用しているとき、このアイテムをそのデフォルトの [Disabled] (使用不能) の設定のままにしておいてください。

Delay Prior to Thermal:

このアイテムは、熱活性化前の遅延時間を選択します。

AGP Aperture Size:

このオプションは、AGP デバイスが使用できるシステムメモリの量を指定します。アパチャはグラフィックスメモリアドレススペース用に割り当てられた PCI メモリアドレス範囲の一部分です。

Init Display First:

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

[AGP]: システムが起動するとき、まず AGP を初期化します。

[PCI Slot]: システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

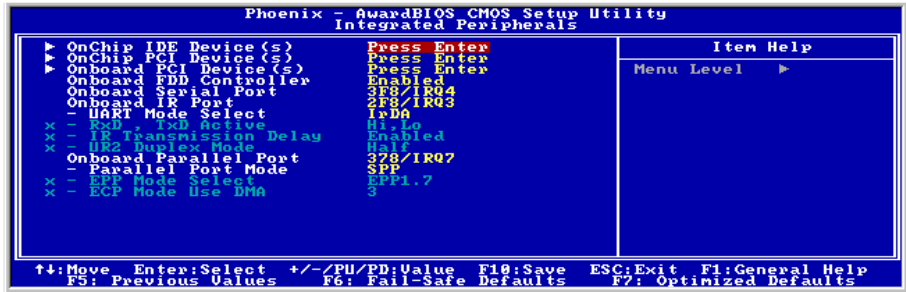
AGP Data Transfer Rate:

このアイテムにより、AGP デバイスのデータ転送速度を選択できます。速度が高ければ高いほど、システムのグラフィックス速度は高速になり性能も向上します。お使いのグラフィックスカードが選択したモードをサポートすることを確認してください。

Differential Current:

このアイテムは、クロックの現在の内部参照速度を選択します。

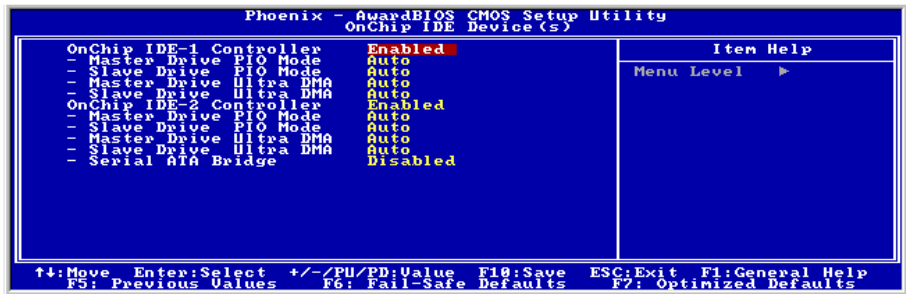
3-5. Integrated Peripherals



↳ OnChip IDE Device(s):

Onchip IDE Device(s):

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



OnChip IDE-1 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

* Master/Slave Drive PIO Mode

PIO (プログラムド I/O) モードにより、BIOS はコントローラに必要なものを伝えることでコントローラと CPU が完全なタスクを実行できるようにします。BIOS が一連のコマンドを出して、ディスクドライブへの送受信に影響を及ぼすことはありません。

[Auto]: BIOS は、ディスクドライブをチェックした後利用に最も適したモードを選択します。

[Mode 0-4]: ディスクドライブのタイミングに一致するモードを選択できます。間違った設定を使用しないでください、そうでないとドライブレアラーが発生します。

* Master/Slave Drive Ultra DMA

このアイテムにより、Ultra DMA を使用できるように設定できます。

[Auto]: BIOS は、ハードドライブや CD-ROM をチェックした後、利用に最も適したオプションを選択します。

[Disabled]: BIOS はこれらのカテゴリを検出しません。Ultra DMA デバイスを使用中に問題が発生したら、このアイテムを使用不可能にしてください。

OnChip IDE-2 Controller:

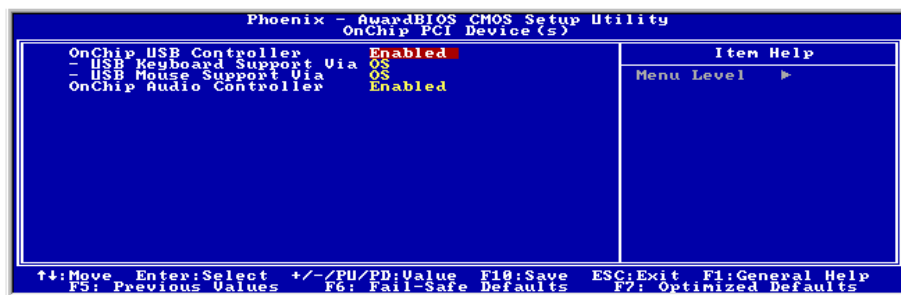
OnChip IDE-1 Controller の説明を参照してください。

Serial ATA Bridge:

このオプションは、シリアル ATAブリッジコントローラの使用可能/不可能を切り替えます。

↳ OnChip PCI Device(s):

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



OnChip USB Controller:

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

* USB Keyboard Support Via:

2つのオプション、BIOS および OS を使用することができます。デフォルトの設定は **OS** です。お使いのオペレーティングシステムが USB キーボードをサポートしている場合、それを OS に設定してください。

* USB Mouse Support Via:

2つのオプション、BIOS および OS を使用することができます。デフォルトの設定は **OS** です。お使いのオペレーティングシステムが USB マウスをサポートしている場合、それを BIOS に設定してください。

OnChip Audio Controller:

このアイテムはオンボードオーディオコントローラを使用できるようにします。

☞ Onboard PCI Device(s):

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



LAN Controller:

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

LAN Boot ROM:

このアイテムにより、（ディスクドライブの代わりに）ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

☞ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります：

Onboard FDD Controller:

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。

Onboard Serial Port:

このアイテムは、どの I/O アドレスにオンボードのシリアルポートコントローラがアクセスするかを決定します。

[Auto]：システムは、オンボードシリアルポートの I/O アドレスを自動的に選択します。

[3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3]：オンボードシリアルポートの I/O アドレスを手動で選択できるようにします。

[Disabled]：オンボードシリアルポートを個別にまたは同時に使用不可能に設定します。

Onboard IR Port:

このアイテムは、どの I/O アドレスにオンボードの赤外線ポートコントローラがアクセスするかを決定します。

[Auto]：システムは、オンボード赤外線ポートの I/O アドレスを自動的に選択します。

[3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3]：オンボード赤外線ポートの I/O アドレスを手動で選択できるようにします。

[Disabled] : オンボード赤外線ポートを個別にまたは同時に使用不可能に設定します。

UART Mode Select

このアイテムは、UART モードを選択します。

※ **RxD, TxD Active:**

このアイテムは、IR 送信/受信極性を設定します。

※ **IR Transmission Delay:**

このオプションは IR 送信遅延の使用可能/不可能を切り替えます。[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、送信速度は遅くなります。転送問題が発生した時は、[使用可能]に設定するようお勧めします。

※ **UR2 Duplex Mode:**

このアイテムは、IR ポートに接続された IR デバイスの要求する二重モードを選択します。全二重モードは、二方向同時送信を可能にします。半二重モードは一度に一方方向の送信を可能にします。どの設定が正しいかを知るには、IR KIT ユーザーズガイドを参照してください。

Onboard Parallel Port:

このアイテムは、パラレルポートが使用する I/O アドレスを指定します。

[Disabled] : このオプションは、パラレルポートがシステムリソースに一切アクセスできないようにします。このオプションの値が使用不可能に設定されていると、プリンタポートは使用できません。

[378] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして 378 を使用できるようにします。コンピュータシステムの大多数のパラレルポートは、標準設定として IRQ7 と I/O ポート 378H を使用します。

[278] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして 278 を使用できるようにします。

[3BC] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして 3BC を使用できるようにします。

※ **Parallel Port Mode:**

このアイテムは、パラレルポートのモードを指定します。

[SPP] : 標準速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[EPP] : 最高速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[ECP] : 標準モードのデータ転送速度より高速で双方向のパラレルポート操作を可能にします

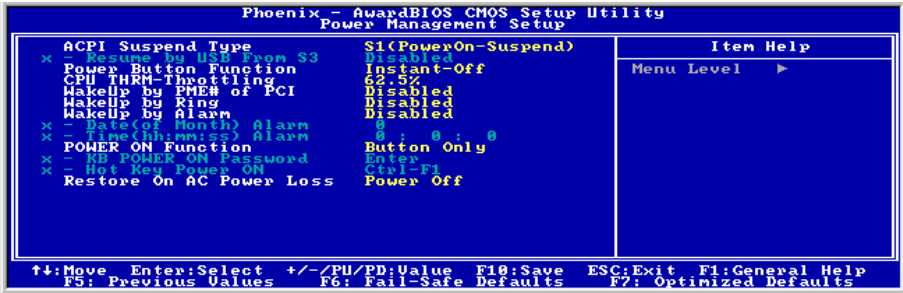
※ **EPP Mode Select:**

このアイテムは EPP モードを選択します。

※ **ECP Mode Use DMA:**

このアイテムは、パラレルポートの DMA チャンネルを選択します。

3-6. Power Management Setup



ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(POS)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(STR)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

[Auto] : サスペンドモードのタイプを自動的に選択します。

Resume by USB From S3:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、このアイテムにより USB デバイスを使用して S3 (STR - RAM にサスペンド) 状態にあるシステムを呼び起こすことができます。このアイテムは、アイテム“ACPI サスペンドタイプ”が[S3(STR)]に設定されているときのみ構成できます。

Power Button Function:

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.]: 電源ボタンを4秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押ししたりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off]: 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

CPU THRM-Throttling

このアイテムは、STR (RAM へのサスペンド) 状態の間、その通常の電力をあるパーセンテージに切り下げることで CPU 速度を制御します。

WakeUp by PME# of PCI:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

WakeUp by Ring:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、外付けまたは内蔵モデムを通して入る電話の呼出はシステムの電源をオンにします。

WakeUp by Alarm:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、“日 (月の) アラーム”および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムでソフトオフ PC の電源をオンにしたい日と時間を設定できます。ただし、システムがこれらのアイテムで設定された日と時間より前に入電またはネットワーク(レジュームオンリング/LAN)によりアクセスされると、システムは入電やネットワークに優先順位を与えます。

※ Date (of Month) Alarm

[0]: このオプションは、“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に従って毎日システムの電源をオンにします。

[1-31]: このオプションは、システムの電源をオンにする日を選択します。システムは設定された日、および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に電源がオンになります。

※ Time (hh:mm:ss) Alarm

このアイテムは、システムの電源をオンにする時間を設定します。

POWER ON Function:

このアイテムは、システムの電源をオンにする方法を選択します。

[Password]: パスワードを使用してシステムの電源をオンにします。このオプションを選択してから、<Enter>を押してください。パスワードを入力してください。最大 5 文字まで入力できます。正確に同じパスワードを入力して確認したら、<Enter>を押します。

[Hot Keys]: <F1> から <F12>までのどれかの機能を使用して、システムの電源をオンにします。

[Mouse Left]: マウスの左ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Mouse Right]: マウスの右ボタンをダブルクリックして、システムの電源をオンにします。

[Any Key]: キーボードの任意のキーを使用して、システムの電源をオンにします。

[Button Only]: 電源ボタンのみを使用して、システムの電源をオンにします。

[Keyboard 98]: “Keyboard 98”互換キーボードの電源オンボタンを使用して、システムの電源をオンにします。

注: マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

※ KB Power ON Password:

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

注: パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

*** Hot Key Power ON:**

このアイテムは、<Ctrl>キーと機能キー(<F1> ~ <F12>)のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

Restore On AC Power Loss:

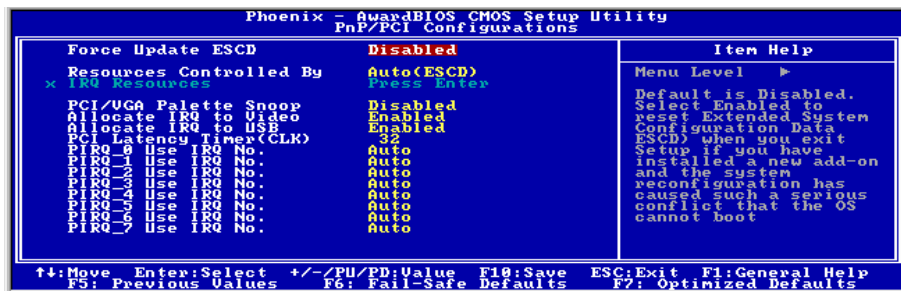
このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off]: AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。.

3-7. PnP/PCI Configurations



Force Update ESCD:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、次回起動するとき BIOS は ESCD (拡張システム構成データ) を自動的にリセットします。次に新しいセットの構成データを再現します。しかし、次に起動するとき、このオプションは自動的に使用不可能に設定されます。

注: ESCD (Extended System Configuration Data) にはシステムの IRQ、DMA、I/O ポート、メモリ情報が記録されます。これは Plug & Play BIOS の仕様であり機能です。

Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

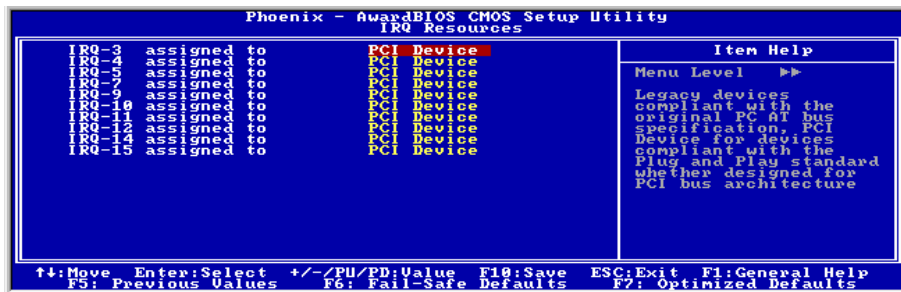
[Auto(ESCD)]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

* IRQ Resources:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを [PCI デバイス] または [予約済み] に設定します。



PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Allocate IRQ To Video :

このアイテムは、取り付けられた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Yes] : 取り付けられた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[No] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

Allocate IRQ To USB

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

PCI Latency Timer(CLK):

このオプションでは、時間の量のコントロールを選択できるようになっており、ICH2 アービタは PCI イニシエータが PCI バス上で複数のトランザクションを連続して実行することを可能にしています。

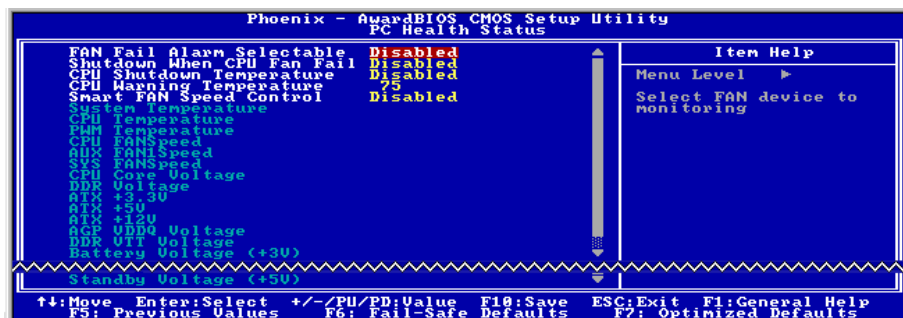
PIRQ_0 Use IRQ No. ~PIRQ_7 Use IRQ No. :

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

PIRQ (ICH チップセットからの信号)、INT# (PCI スロット IRQ 信号のことです) のハードウェアレイアウト間の関係については、下の表を参照してください。

| 信号 | AGP | LAN | PCI-1 | PCI-2 | PCI-3 | PCI-4 | PCI-5 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| PIRQ_0 割り当て | INT A | | INT D | | | | |
| PIRQ_1 割り当て | INT B | | INT A | | | | |
| PIRQ_2 割り当て | | | INT B | | | | |
| PIRQ_3 割り当て | | INT A | INT C | | | | |
| PIRQ_4 割り当て | | | | INT A | INT B | INT C | INT D |
| PIRQ_5 割り当て | | | | INT B | INT C | INT D | INT A |
| PIRQ_6 割り当て | | | | INT C | INT D | INT A | INT B |
| PIRQ_7 割り当て | | | | INT D | INT A | INT B | INT C |

3-8. PC Health Status



FAN Fail Alarm Selectable:

このアイテムは、誤動作を監視するファンを選択します。

Shutdown When CPU Fan Fail:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、システムは CPU ファンが作動していないときに停止します。

CPU Shutdown Temperature:

このアイテムは、システムが過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

CPU Warning Temperature:

このアイテムは、CPU の警告温度の限界を選択します。システムが CPU の温度が限界を超えていることを検出すると、警告音が鳴ります。

注： オンボードハードウェア監視機能は、これらのシステムヘルス状態を検出できます。異常な状態が発生したとき、警告メッセージを表示したり警告アラームを鳴らしたい場合、“ハードウェアドクター”ユーティリティをインストールする必要があります。このユーティリティは本マザーボードに付属する“ドライバとユーティリティ CD”に含まれています。

Smart Fan Speed Control:

このアイテムにより、CPU のファン速度を制御して特定の割合に落とすことができます。両方のアイテム“CPU 停止温度”と“CPU 警告温度”の温度制限を超えない場合、CPU のファン速度は設定した割合で作動します。。両方のアイテム“CPU 停止温度”と“CPU 警告温度”の温度制限を超える場合、CPU のファン速度は設定した割合に関わらず、その 100%の速度で作動します。

All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:

CPU と環境の温度、ファンの回転速度、システムの電源の電圧を表示します。これらの値は変更できません。

注: 温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。

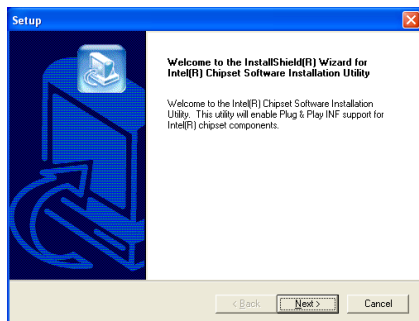
付録 A. Intel チップセットドライバのインストール

注：Windows オペレーティングシステムをインストールした後、まず Intel チップセットドライバをインストールしてください。

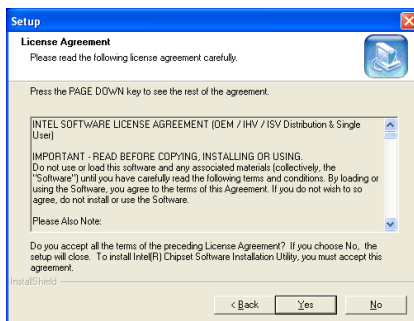
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

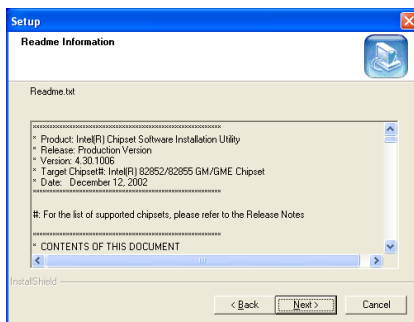
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[Intel チップセットソフトウェアユーティリティ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



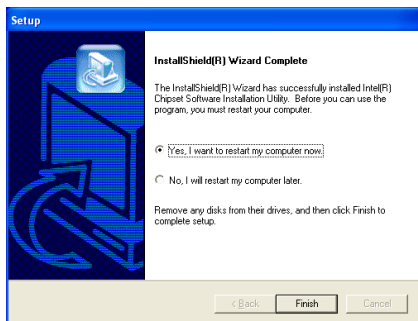
1. [次へ] をクリックします。



2. [はい] をクリックします。



3. [次へ] をクリックします。



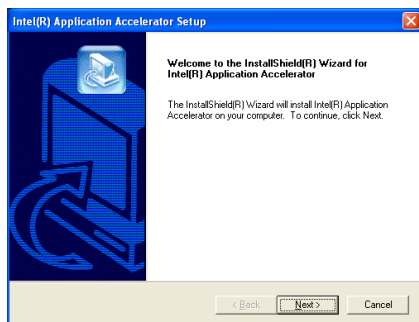
4. 「はい、今すぐコンピュータを再起動します」を選択されるようお勧めします。「完了」ボタンをクリックするとシステムが再起動します。

付録 B. Intel アプリケーションアクセラレータのインストール

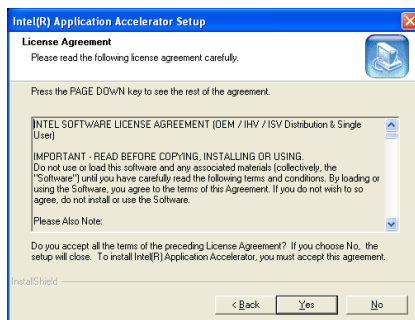
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

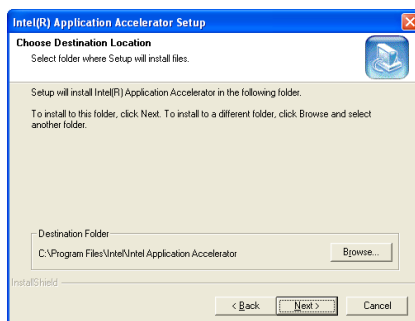
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[Intel アプリケーションアクセラレータのインストール]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



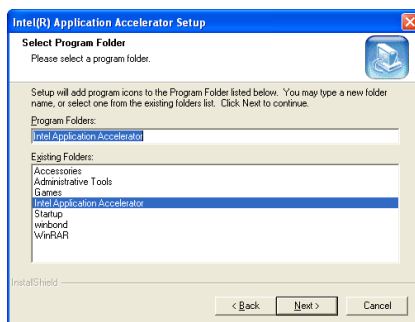
1. [次へ] をクリックします。



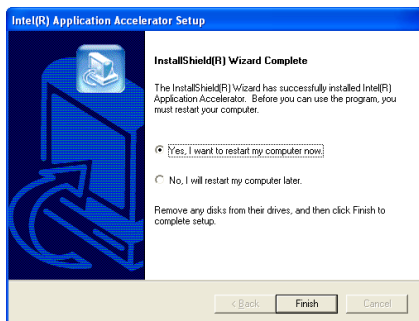
2. [はい] をクリックします。



3. [次へ] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。



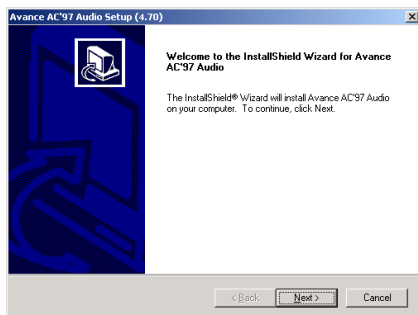
5. 「はい、今すぐコンピュータを再起動します」を選択されるようお勧めします。「完了」ボタンをクリックするとシステムが再起動します。

付録 C. オーディオドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

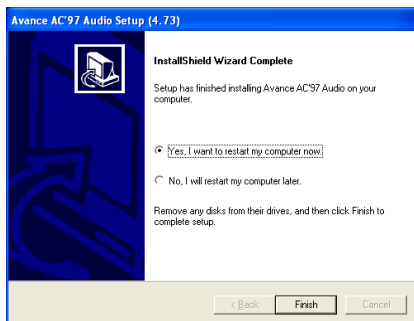
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[RealTek ALC650 オーディオドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



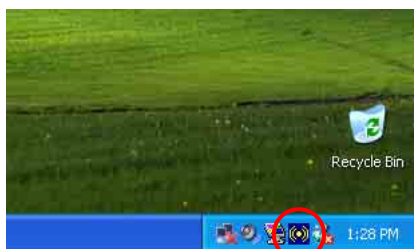
1. [次へ] をクリックします。



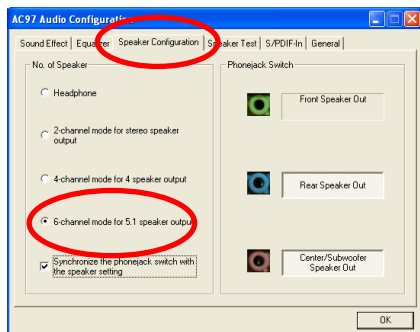
2. [Continue Anyway] をクリックします。



3. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



4. システムが再起動した後、タスクバーの右隅にショートカットアイコンが表示されます。



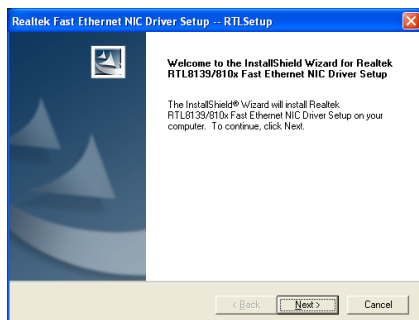
5. このスピーカー構成タブで、[5.1 スピーカー出力用の 6 チャンネルモード] ボックスにチェックマークを入れて 6 チャンネルオーディオシステムを使用可能に設定します。

付録 D. LAN ドライバのインストール

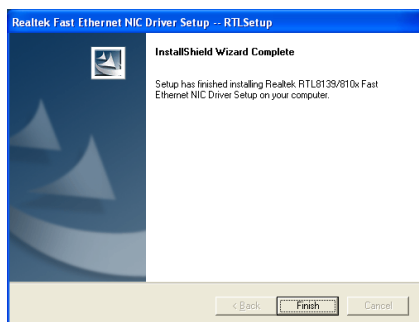
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[RealTek LAN ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [次へ] をクリックします。



2. [終了] をクリックします。

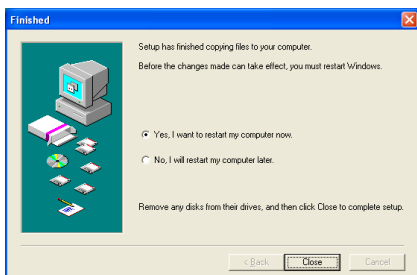


付録 E. USB 2.0 ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[USB 2.0 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[閉じる]をクリックすると、システムが再起動します。



2. [次へ] をクリックします。



3. [終了] をクリックします。



4. [次へ] をクリックします。

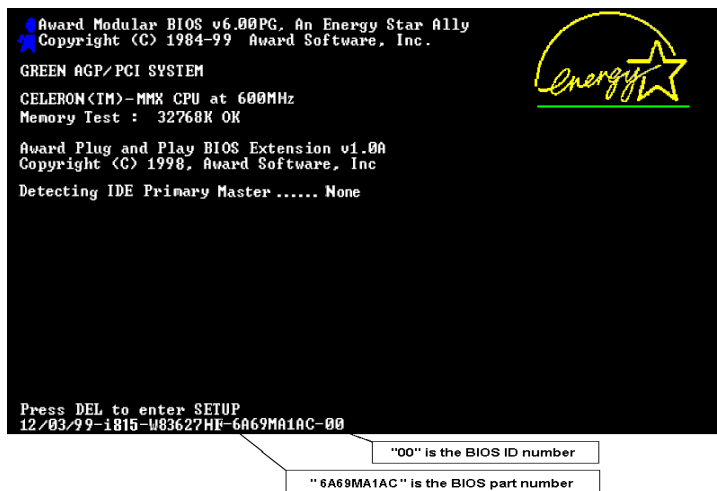


5. [終了] をクリックします。

付録 F. BIOS アップデートガイド

ここで示した手順は、モデル SE6 の例に基づいています。他のすべてのモデルも同じプロセスに従います。

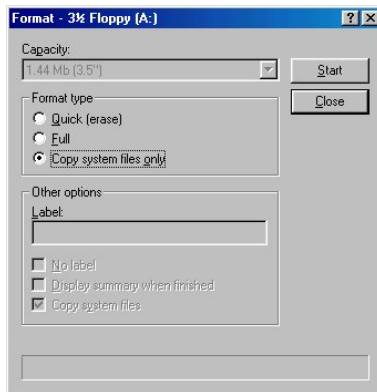
1. まず、このマザーボードのモデル名とバージョン番号を検索します。マザーボード PCB には、モデル名とバージョン番号を記入したバーコードスティッカがあります。
2. 現在の BIOS ID を検索します。上記の例では、現在の BIOS ID は [00] です。お使いの BIOS が最新ののであれば、更新する必要はありません。使用中の BIOS が最新のものでない場合は、次のステップに進んで下さい。



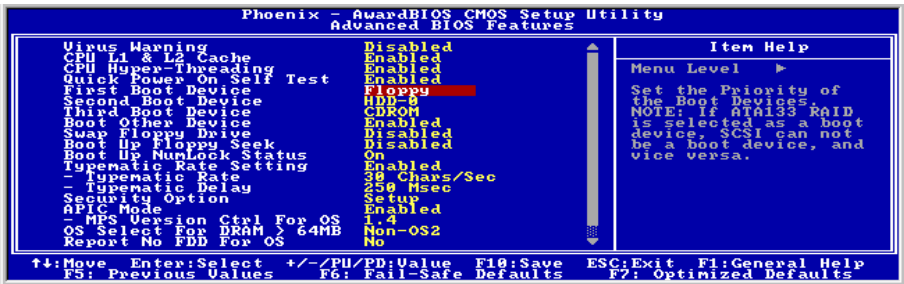
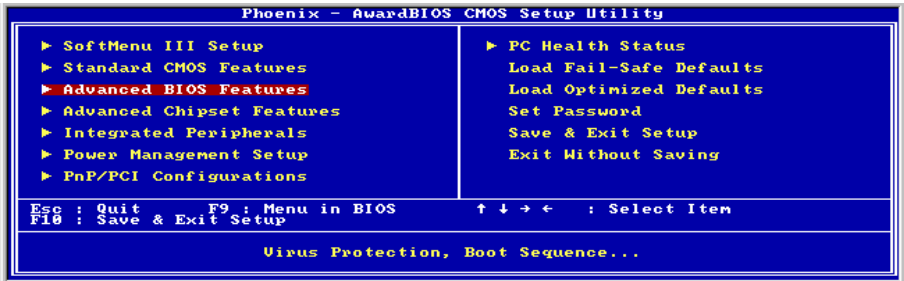
3. Web サイトから正しい BIOS ファイルをダウンロードします。
4. ダウンロードしたファイルをダブルクリックすると、[awdf flash.exe] と[* .bin] ファイルが自己解除します。
5. ブート可能なフロッピーを作成し、他に必要なファイルをコピーします。ブート可能なディスクはエクスプローラまたは、DOS プロンプトモードで作成できます。

```
[c:]\format a: /s
```

システムをフォーマットしてフロッピーディスクに転送した後、2 つのファイルをディスクにコピーします。1 つは BIOS フラッシュユーティリティ「awdf flash.exe」で、もう 1 つは圧縮解除された BIOS 「*.bin」ファイルです。



6. BIOS 設定画面で、First boot device を [Floppy] にし、フロッピーから起動できるようにします。



7. BIOS を DOS モードで更新します

```
A:\>awdf flash se6_sw.bin /cc /cd /cp /py /sn /cks /r_
```

注：

- BIOS の更新をするときは、上記の“awdf flash”の後のパラメータを使用することを強く推奨します。上記パラメータ無しで、ただ“awdf flash se6_sw.bin”というようにタイプすることはしないでください。
- Award のフラッシュユーティリティは Windows の環境かでは完了できないので、純粋の DOS 環境にしなければなりません。
- どの BIOS ファイルがご利用のマザーボードで使用できるかをチェックし、間違った BIOS ファイルでフラッシュしないようお勧めします。さもなければ、システムの誤動作を招きます。
- マザーボードの BIOS をフラッシュする場合は、Version 7.52C よりも古いバージョンの Award flash memory writer は使用しないでください。これよりも古いバージョンを使用すると、フラッシュに失敗したり、問題が発生したりします。
- 更新中はその状態が白いブロックで表示されます。最後の 4 つは青色のブロックで表示され、BIOS ブートブロックを示します。BIOS ブートブロックは、BIOS 更新において BIOS が完全に壊れてしまうことを防ぎます。この部分は毎回更新される訳ではありません。BIOS 更新中にデータが壊れてしまっても、この BIOS ブートブロックの部分はそのまま残ります。これにより、システム自体は最低限フロッピーからのブートをすること可能にしています。この機能によって、お客様は販売店のテクニカルサポートに依頼することなく、BIOS の書きこみを再度行うことができます。

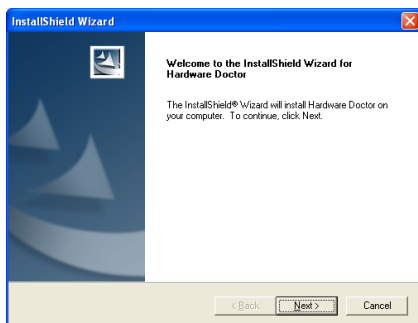
付録 G. ハードウェア監視 (Winbond Hardware Doctor ユーティリティ)

Winbond Hardware Doctor は PC の自己診断システムで、Winbond のチップセット W83627HF IC シリーズ製品で使用されます。同ユーティリティは電源電圧、CPU およびシステムファンの速度、CPU およびシステム温度を含む複数の微妙な項目を監視して PC ハードウェアを保護します。そうした項目はシステムの操作に重要で、エラーは PC に致命的なダメージを与えることがあります。1 つの項目でも基準を超えると、警告メッセージがポップアップし、正しい処置をとるようユーザーに促します。

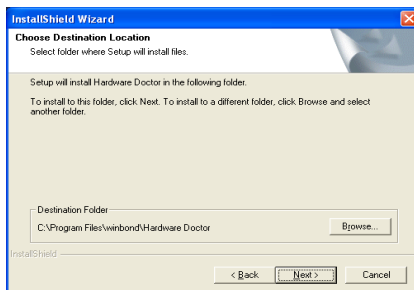
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

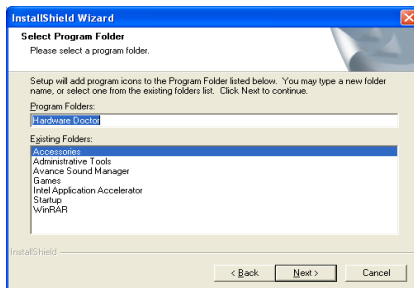
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ドライバ] タブに移動します。[Install Hardware Doctor] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



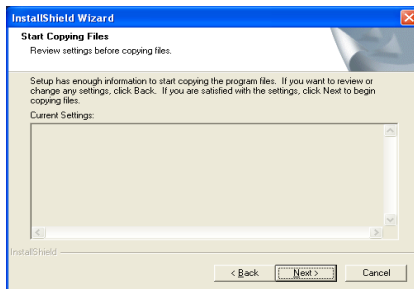
1. [次へ>] をクリックします。



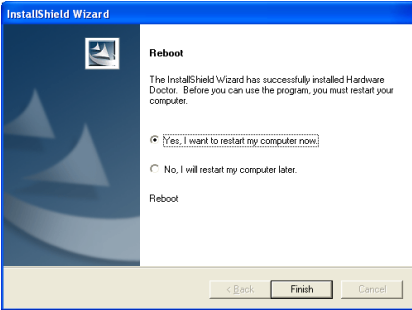
2. [次へ>] をクリックします。



3. [次へ>] をクリックします。



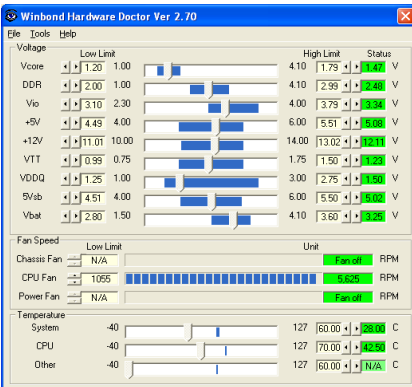
4. [次へ>] をクリックします。



5. [はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



6. Windows ツールバーをポイントしてを Hardware Doctor 実行し、[スタート] → [プログラム] → [WindBond] → [Hardware Doctor] を順にクリックします。



7. この画面が表示されます。Hardware Doctor は、電圧、ファン速度、温度の読取りの状態も表示します。どれかの読取りが

限界に達したりその限界を超えた場合、読取りは赤くなります。また、ポップアップウィンドウが表示されて、システムに問題があることを警告します！



8. この図は警告メッセージのウィンドウです。

Ignore (無視) : 今回アイテムの警告メッセージを無視できますが、次回同じアイテムにエラーが生じると再びポップアップメッセージが表示されます。

Disable (使用しない) 選択したアイテムは「設定」ページでアクティブにしない限り監視されません。

Shutdown (シャットダウン) このボタンを選ぶとコンピュータはシャットダウンします。

Help (ヘルプ) 詳しい情報と自己診断の簡単な問題がご覧になれます。

警告の範囲が正しく設定されていないために警告ポップアップメッセージが表示される場合、[設定] オプションから調整できます。例えば、温度の高さの制限を 40°C にすると、すぐに適正温度を超えてしまいます。

Configuration オプションを変更するときには、新しい設定が正しい範囲内の値であること、変更内容は必ず保存することの2点に注してください。せっかく変更を行ってもその内容を保存しなければ、システムは次回デフォルト値で起動します。

問題が生じたり、ソフトウェアの設定や調整について不明な点があるときには、Winbond Hardware Doctor のオンラインヘルプをお読みください。

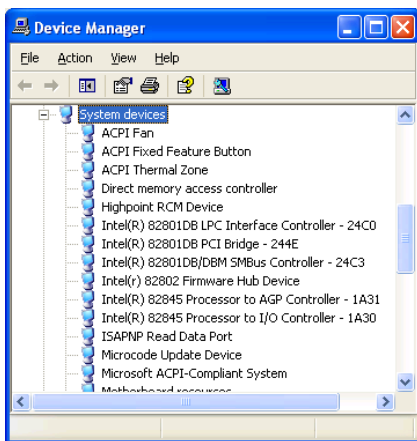
付録 H. Suspend to RAM について

Suspend To RAM (STR) は ACPI 1.0 規格に組み込まれた省電力機能です。ACPI 規格はシステムメモリ以外のすべての状態が失われる S3 スリープ状態について定義してあります。この状態に入ると、CPU、キャッシュ、チップセットの状態が失われます。メモリの状態はハードウェアによって維持され、CPU と L2 のいくつかの設定状態が復元されます。

STR 機能とは、システムがアイドル状態にあるときにシステムを S3 状態に移行させ、特定のイベントが発生したときにシステムをスリープモードに入る直前の状態に戻す機能です。アイドル状態になると、STR 機能が設定されたシステムは省電力モードに入ります。この機能を活用することによって、わざわざシステムをシャットダウンしなくても、電力消費量を節約することができます。システムを省電力モードから回復させたいときには、STR 機能を持つ PC ならわずかに数秒ですべてのアプリケーションと機能をフルモードに戻すことができます。

以下に STR 機能の設定の仕方と使い方を説明します。

オペレーティングが正常にインストールされた後、コンピュータを再ブートします。それから、**スタート → 設定 → コントロール パネル → システム → システムのプロパティ → ハードウェア**を順にクリックすると、これらの ACPI アイテムが“デバイスマネージャ”メニューに表示されます。



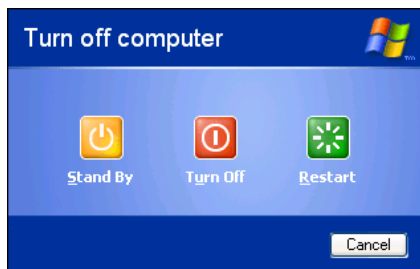
STR 機能の使い方：

システムを STR モードに移行させるには、次の2つの方法があります。

方法 1： [Turn Off Computer] エリアで [Stand by] を選択します。

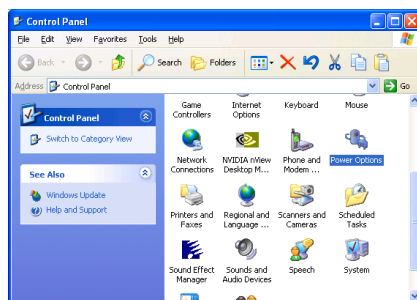


1. Windows のツールバーから [Start] を選択し、[Turn Off Computer] を選択します。

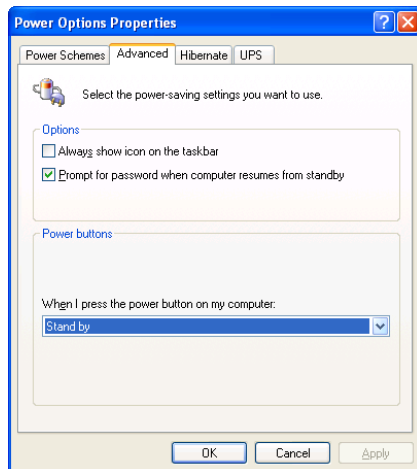


2. [Stand by] をクリックします。

方法 2： [電源] ボタンを押すと STR モードに移行するように設定します。



1. [コントロールパネル] を開き、[Power Options] を選択します。



2. [Advanced] を選択し、[Power Buttons] を [Standby] に設定します。

これらの設定を有効にするために、コンピュータを再起動してください。以後はフロントパネルの電源ボタンを押すだけで、システムを STR モードに移行させることができます。

付録 I. トラブルシューティング

マザーボードトラブルシューティング

Q & A:

Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお勧めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メインボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せずに、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

例 1: マザーボード (CPU, DRAM, COAST などを含む)、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

それでも起動しない場合:

他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうか試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、「**問題の説明**」欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

起動する場合:

取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、「その他のカード」の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、および問題をについての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

例 2: マザーボード (CPU, DRAM, COAST などを含む)、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

```
CONFIG.SYS:  
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS  
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN  
DOS=HIGH, UMB  
FILES=40  
BUFFERS=36  
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFMG.SYS  
LASTDRIVE=Z
```

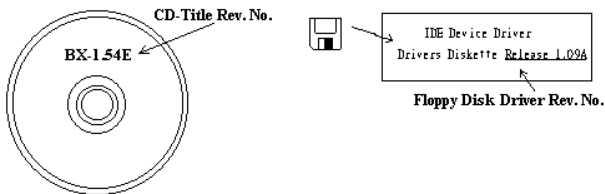

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、"問題の説明"欄に詳しい説明を記入してください。

テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。

主な注意事項...

[テクニカルサポート用紙] に必要事項を記入する場合、次の注意事項を守ってください。

- 1* **モデル名**：ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。
例：BH7
- 2* **マザーボードのモデル番号 (REV)**：マザーボードに [REV:*.**] と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。
例：REV: 1.01
- 3* **BIOS ID および部品番号**：オンスクリーンのメッセージをご覧ください。
4. **ドライババージョン**：デバイスドライバのディスク（もしあれば）に [Release *.*]** などと記されているバージョン番号を記入します。



- 5* **OS/アプリケーション**：使用している OS およびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。
例：MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT....
- 6* **CPU**：CPU のメーカー名および速度 (MHz) を記入します。
例：(A) [メーカー名] の欄には [Intel]、[仕様] の欄には [Pentium® 4 1.9GHz] と記入します。
7. **HDD**：HDD のメーカー名、仕様、IDE1 およびIDE2 のどちらで使っているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、 をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、IDE1] マスターとみなします。
例：[HDD]の欄のボックスをチェックし、メーカー名には[Seagate]、仕様の欄には[ST31621A (1.6GB)] と記入します。
8. **CD-ROM ドライブ**：CD-ROM ドライブのメーカー名、仕様、IDE1 およびIDE2 のどちらで使っているかを記入します。また、“” をチェック (“✓”) してください。チェッ

クがない場合は、“☑IDE2”マスターとみなします。

例：“CD-ROM ドライブ”の欄のボックスをチェックし、メーカー名には“Mitsumi”、仕様の欄には“FX-400D”と記入します。

9. システムメモリ (DDR SDRAM): システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CAS レイテンシ、速度 (MHz)のような、仕様 (DDR DIMM) を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。

密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度 (MHz): 200 MHz。

お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。

10. その他のカード: 問題に関係しているのが“絶対確実である”カードを記入します。問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。

注: [*] の項目は必ず記入してください。

RAID のトラブルシューティング

Q & A:

Q: 容量や転送モードが異なるハードドライブを使用できますか?

A: 最適な性能を得るためには、同じモデルのハードドライブをお使いになることをお勧めします。

Q: ブートデバイスはどのようにして割り当てますか。

A: RAID BIOS で <Ctrl> <H>を押してください (付録 G 参照)。

Q: FDISK ユーティリティで正しい容量を確認できません。

A: これは、Windows® 95/98 の FDISK ユーティリティのよく知られた問題です。IBM 75GB ハードディスク DTLA 307075 が Windows® 95/98 の FDISK ユーティリティで 7768MB しか使用できない場合、Microsoft® に連絡して最新バージョンの FDISK ユーティリティを入手してください。Windows® 2000 の場合、そのような 64GB の問題はありません。

<http://www.storage.ibm.com/techsup/hddtech/welcome.htm>

Q: ストリッピング/ミラーアレイ (RAID 0+1) の形成方法を教えてください。

A: これを実行するには 4 台のドライブが必要です。同じチャネル/ケーブルの各 2 台がストリップングアレイを形成します。これら 2 つのストリップングアレイでミラーアレイを形成します (付録 G 参照)。

1. <Ctrl><H>を押して設定します。
2. Create RAID をアイテム 1 に設定します。
3. Set Array Mode as Striping and Mirror (RAID 0+1) をアイテム 1 に設定します。
4. Select Disk Drives をアイテム 2 に設定します。自動的に形成された 2 つのストリップングアレイがありますので、2 回入力するだけで OK です。
5. Start Creation Process をアイテム 4 に設定します。
6. <Esc>キーを押して RAID BIOS を終了します。

Q: 1 台のドライブが故障している場合はどのようにしてミラーアレイを再構成しますか。

A: 前のアレイ設定を削除して、データを複製し、新しくアレイ設定を行ってください（付録 G 参照）。


1. <Ctrl><H>を押して設定します。
2. Delete Array をアイテム 2 に設定します。
3. Duplicate Mirror Disk をアイテム 3 に設定します。
4. Select Source Disk（データが保管されている方）をサブアイテム 1 に設定します。
5. Select Target Disk（新しい空の方）をアイテム 2 に設定します。
6. Start Duplication Process をサブアイテム 3 に設定します。
7. 複製が完了したら<Esc>キーを押して RAID BIOS を終了します。


Q: ブート時に“NO ROM BASIC SYSTEM HALTED”というメッセージが表示されるのはなぜですか？


A: システムに有効なプライマリパーティションがありません。FDISK か別のユーティリティを使ってこれを作成/設定してください。


注意事項：


1. 最高の品質と性能を得るために、必ず同じモデルのドライブをお使いください。メーカーによってタイミングの特性が異なりますので、RAID の性能が下がってしまいます。
2. ドライブが 2 台ある場合は、マスタードライブとして別々のチャンネルに接続してください。
3. RAID カードにドライブを接続するときには、マスター/スレーブジャンパが正しく設定されていることを確認してください。1 本のチャンネル/ケーブルに 1 台のドライブしかない場合は、マスターもしくはシングルドライブとして設定してください。
4. 必ず 80 コンダクタケーブルをお使いください。
5. RAID カードには ATAPI デバイス（CD-ROM, LS-120, MO, ZIP100 等）を接続しないでください。
6. 最高の性能を得るためには、Ultra ATA 66/100 ハードディスクをお使いください。


 テクニカルサポート用紙

 会社名：

 電話番号：

 連絡先：

 ファックス番号：

 E-mail：

| | | | |
|-------------------|--|-----------|---|
| モデル名 | * | BIOS ID # | * |
| マザーボードの モデル番号 | | ドライババージョン | |
| OS/アプリケーション | * | | |
| | | | |
| ハードウェア名 | メーカー名 | 仕様 | |
| CPU | * | | |
| HDD | <input type="checkbox"/> IDE1 <input type="checkbox"/> IDE2 | | |
| CD-ROM ドライブ | <input type="checkbox"/> IDE1 <input type="checkbox"/> IDE2 | | |
| システムメモリ (DRAM) | | | |
| その他のカード | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

問題の説明：

付録 J. テクニカルサポートの受け方について

(ホームページ) <http://www.abit.com.tw>

(米国) <http://www.abit-usa.com>

(ヨーロッパ) <http://www.abit.nl>

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様へ直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがって、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行っててください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力を願います。

1. **マニュアルをお読みください。** マニュアルの作成には万全の注を払って、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにもマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。
2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。** 弊社の Web サイトをご覧になり、バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、**最新バージョンのドライバをインストールしてください。**

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**
弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。
4. **インターネットニュースグループをご利用ください。** ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ (alt.comp.peripherals.mainboard.abit) はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

alt.comp.peripherals.mainboard.abit
alt.comp.peripherals.mainboard
comp.sys.ibm.pc.hardware.chips
alt.comp.hardware.overclocking
alt.comp.hardware.homebuilt
alt.comp.hardware.pc-homebuilt
5. **リセラーへお問い合わせください。** 技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。
6. **ABIT へお問い合わせください。** ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様へサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

北米および南米：**ABIT Computer (U.S.A.) Corporation**

45531 Northport Loop West,
Fremont, California 94538, U.S.A.
電話番号：1-510-623-0500
ファックス番号：1-510-623-1092

sales@abit-usa.com
technical@abit-usa.com

ドイツ、ベネルクス諸国（ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ）、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス：
AMOR Computer B.V. (ABIT のヨーロッパ事務所)

Van Coehoornstraat 7,
5916 PH Venlo, The Netherlands
電話番号：31-77-3204428
ファックス番号：31-77-3204420

sales@abit.nl
technical@abit.nl

日本：**ABIT Computer (Japan) Co. Ltd.**

ファックス番号：81-3-5396-5110
<http://www.abit4u.jp>

ロシア：**ABIT Computer (Russia) Corporation Ltd.**

ファックス番号：7 (095) 937 8237
<http://www.abit.ru>

英国およびアイルランド：**ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.**

Unit 3, 24-26 Boulton Road,
Stevenage, Herts SG1 4QX, U.K.
電話番号：44-1438-228888
ファックス番号：44-1438-226333

sales@abitcomputer.co.uk
technical@abitcomputer.co.uk

オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラビア、スロバキア、スロベニア、クロアチア、セルビア：

Asguard Computer Ges.m.b.H

Schmalbachstrasse 5,
A-2201 Gerasdorf/wien, Austria
電話番号：43-1-7346709
ファックス番号：43-1-7346713

asguard@asguard.at

上海：**ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.**

電話番号：86-21-6235-1829
ファックス番号：86-21-6235-1832

<http://www.abit.com.cn>

フランス：**ABIT Computer France SARL**

4, Place La Defense,
92974 Paris La Defense cedex, France
ファックス番号：33-1-5858-0047

<http://www.abit.com.tw>

その他のすべてのテリトリは上ではカバーされていません。以下にお問合せください：**台湾本部：**

当社の本部に連絡するときは、当社の所在地が台湾にあり、8+ GMT 時間を採用していることにご注意ください。さらに、お客様の国とは異なる休日も採用しています。

ABIT Computer Corporation

No.323, YangGuang St., Neihu, Taipei, 114, Taiwan

電話番号：886-2-8751-8888

ファックス番号：886-2-8751-3381

sales@abit.com.tw
market@abit.com.tw
technical@abit.com.tw
<http://www.abit.com.tw>

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。
8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその 1 つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。
9. 下記は、参考としてのチップセットベンダの Web サイトアドレスです。

HighPoint Technology Inc.WEB サイト: <http://www.highpoint-tech.com/>

Intel WEB サイト: <http://www.intel.com/>

Silicon Image WEB サイト: <http://www.siimage.com/>

SiS WEB サイト: <http://www.sis.com.tw/>

VIA WEB サイト: <http://www.via.com.tw/>

ありがとうございました。

ABIT Computer Corporation

<http://www.abit.com.tw>